

ほんのもり

No. 6 2025.10

富岡中学校図書館
学校司書 村木加津



～富岡中図書館だより～

10月になり、やっと涼しくなってきましたね。家の近くの彼岸花もやっと咲き始めました。ところで、みなさんは『寒露（かんろ）』という言葉を知っていますか？

日本には四季がありますが、その四季をさらに細かく分け、半月ごとに名前がついた二十四節気のひとつです。秋は8月から始まり「立秋」「処暑」「白露」「秋分」「寒露」「霜降」に分けられ、「寒露」は10月8日から22日頃のことです。さわやかな晴天にめぐまれ、豊かな実りをもたらし、夜には澄んだ虫の音が聞こえ、秋の中で最も過ごしやすいのですが、「涼しさ」から「寒さ」へと向かう時期でもあります。体調に気をつけてみなさんにとって実りのある時間を過ごしてくださいね。



今月の一句について
「大気がすがすがしい秋、いつもの挨拶の言葉も新鮮にひびきます。」という意味だよ！

今月のテーマ ♪ 『合唱』



今月の一句
響^{ひび}爽^{きり}かいた^きだ^きき^ます^すという^{こと}言^ば葉^は
中村草田男

『くちびるに歌を』 中田永一

長崎の五島列島の中学校。合唱部顧問の松山が産休に入るため、松山の中学時代の同級生柏木ユリに1年間の期限付きで合唱部の指導を依頼する。実は、柏木は東京でプロのピアニストとして活動。おまけに、美人ときたから 柏木目当てに合唱部に入部したいという男子生徒が続出。もともと合唱部には女子しかおらず、以前から合唱部に所属していた女子と軋轢（キレツ）が生じる。柏木は課題曲「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」にちなみ、「15年後の自分に向けて手紙を書け」と部員に宿題を出す。部員がそれぞれに抱えている秘密と心の傷も明らかになっていく中、ある事件を経てやる気のなかった男子生徒もコンクールに向けて真面目に練習に打ち込み、次第に部内のわだかまりが解消されて本番に挑むことになる。映画化されました！！

『ソノリティ』 佐藤いつ子

「俺たちにも才能、あるんじゃない？」「自分よりすごいやつがそばにいても、差を見せつけられても、それでも絶対めげない才能」吹奏楽部というだけで、合唱コンクールの指揮者を任されてしまった早紀。内気な彼女が、個性的なクラスメイトとの関わりを通じて自分を解き放っていく。しかし本番直前、思わぬアクシデントが起こり・・・。

『学校で楽しむみんなの合唱①』 さいとうみのる

「合唱」を楽しむためのシリーズ。1巻は「校内合唱コンクール編」としてクラスの話し合いから始め、合唱の基礎知識をイラストを多用しQ&Aも交えてやさしく解説。全3巻あります。

お仕事特集！

おもしろい本が読みたい人は、この指と一まれ。

* 本の内容紹介は各出版社商品紹介などから抜粋



『ナースの卯月に見えるもの』 秋谷りんこ

完治の望めない人々が集う長期療養型病棟に勤める看護師の卯月咲笑。ある日、意識不明の男性のベッド脇に見知らぬ女の子の姿が。それは卯月だけに見える患者の「思い残し」だった。彼らの心残りを解きほぐし、より良い看護を目指したいと奔走する日々が始まった。ナースが起こす小さな奇跡に心温まるお仕事ミステリー。

『ちょっと今から仕事やめてくる』 北川恵海

ブラック企業にこき使われて心身共に衰弱した隆は、無意識に線路に飛び込もうとしたところを「ヤマモト」と名乗る男に助けられた。同級生を自称する彼に心を開き、何かと助けてもらう隆だが、本物の同級生は海外滞在中ということがわかる。なぜ赤の他人をここまで？気になった隆は彼の名前で個人情報をネット検索するが、出てきたのは3年前に激務で自殺した男のニュースだった。スカッとできて最後は泣けます。

『宇宙飛行士選抜試験 ～ファイナリストの消えない記憶～』 内山崇

合否をわける運命の分岐点。宇宙飛行士選抜試験。日本で唯一、宇宙飛行士として生きる夢に挑戦できる場所。日本が有人宇宙開発分野で世界に名乗りを上げた2008年、JAXAは10年振りとなる5回目の宇宙飛行士募集に踏み切った。応募総数は史上最多の963名。この物語は、スペースシャトルにあこがれて宇宙エンジニアになった著者が、「宇宙飛行士」になるために全身全霊を傾けて挑んだ10ヵ月におよぶ選抜試験への挑戦と、その後の12年の葛藤を描いたものである。

『書店員は見た ～本屋さんで起こる小さなドラマ～』 森田めぐみ

こんなへんてこりんでおもしろい職業ってないかも！現役書店員さんが、さまざまな悩みを抱えてやってくるお客様に、ぴったりの本をすすめてくれる、笑いあり涙ありの本屋エッセイ。例えばこんなリクエスト・・・
・プロポーズするとき指輪と一緒に贈りたい。
・夫に料理をしてもらうには。
・猫好きな友達に贈る本は？
・疲れすぎて本も読めなくなったら。
・ビブリアバトルで「サスペンス」がテーマなら・・・などなど。

『ほたるいしマジカルランド』 寺地はるな

大阪の北部の蛍石市にある「ほたるいしマジカルランド」は、願いごとを叶えてくれるという噂のあるメリーゴーランドが人気の老舗遊園地だ。ここで働くのは、どこか不器用で悩みを抱えた人ばかり。アトラクションやインフォメーションの担当者、清掃スタッフに花や植物の管理。お客様の笑顔のために奮闘する従業員たちの日常がふとしたきっかけで動き出し・・・毎日がんばるあなたの心をふっと軽くする温かな物語。

『夜明けのはざま』 町田そのこ

地方都市の寂れた町にある葬儀社「芥子実庵」。仕事のやりがいと結婚の間で揺れ動く中、親友の自死の知らせを受けた葬祭ディレクター、元夫の恋人の葬儀を手伝う花屋、世界で一番会いたくなかった男に再会した葬儀社の新入社員など、死をみつめることで、自分らしさと生への葛藤と決意を描く。「52ヘルツのクジラたち」で本屋大賞の受賞した著者がおくる新たな代表作。